

2026年(令和8年)
4月21日 火曜日
第2009号

京都自動車新聞



2
4
7
8
6
京ト協 基金取り崩し助成金支給
相楽木津川地区 田中会長に聞く
日産京都校 122人の卒業生を送り出す
ひと JU京都青年部会長 村上力氏
◀JAF京都支部 感謝の会に205人

発行所 京都自動車新聞社 京都市伏見区竹田向代町 51-5 (京都自動車会館内) 電話 (075) 672-0552 ファクス (075) 682-0205 メール access@kyotojidoshanp.jp https://kyotojidoshanp.jp

BSI値、再びマイナス

26年1~3月期 最賃引き上げや原材(燃)料高の影響重なる

追跡データベース — 京都商工会議所編 —

府内に本社・本店がある大手・中小企業の2026年1月~3月期における自社業績BSI値(経営状況の力強さ)は▲4.3と前期実績9.3から下降に転じた。年末需要期後の反動に加え、最低賃金引き上げに伴う人件費負担や原材(燃)料高の影響が重なり、多くの業種で業況が悪化した。国内景気BSI値も▲0.6と再びマイナスに転じており、新内閣の経済政策への期待感がある一方、中国との関係や中東情勢の不安定化などが影響し、先行き不透明感が強まっている。京都商工会議所が発表した。

総合判断

業種別にみると、建設業(15.3)を除く全ての業種で下降。特に小売業(▲12.5)、運輸・倉庫業(▲11.8)、サービス業(▲5.0)など、落ち込みが目立った。年末需要の反動や消費の鈍化が影響したとみられる。

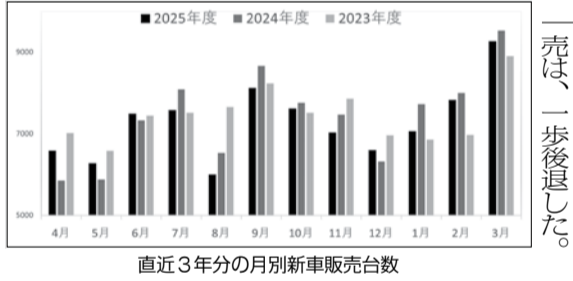
今後の予測では4月~6月期に1.9と上昇に転じるものの、7月~9月期は▲1.1と再びマイナスを予想しており、回復基調は限定的で一進一退の動きが続く見通しだ。企業規模別にみると、大手企業(5.0)は上昇した半面、中小企業(▲8.4)は大幅に落ち込み、明暗が分かれた。コスト負担の影響が中小企業でより大きく出ているとみられる。先行きについては大手・中小ともに持ち直しの動きは

2025年度 府内新車販売 市場回復は一步後退

府内の2025年度の新車販売台数(軽自動車を含む)は、前年度比2.0%減の8万7411台で着地。前年度割れは、2年連続。前年度(0.5%減)並みの予想が広がる中で、マイナス幅を広げる結果となった。

登録車は5万5658台で、前年度比4.8%減の4年ぶりマイナス。軽自動車は同3.3%増の3万1726台で、3年ぶりにプラスに転じ、双方で明暗が分かれた。軽自動車は、相次ぎリリースされた新モデルが、全体の数字を押し上げた格好。この影響から年度後半は、1月を除く全ての月で前年実績を上回った。

一方の登録車は、年度初めの4月、5月に前年を上回るペースで推移し、市場の回復が期待されたが、6月に入ると一気に減速。11月まで6カ



直近3年分の月別新車販売台数

月連続で、前年同月を割る形となった。12月にやや持ち直し、単月で前年比プラスを記録したが長続きせず、年が明けた1月から3月までは連続マイナスを記録した。

登録車は年間8カ月前年割れの不調を極め、特に減少幅が目立ったのが3月。本来であれば書き入れ時の年度末だが、4月からの環境性能割廃止を受けて納車を延ばす動きが一部の販売店で見られた。前年同月比9.7%減まで落ち込み、単月で2年ぶりに6000台を割り込んだ。

登録車と軽自動車を合わせた月別の販売台数も、登録車の不振に引張られる形で推移。年度始めこそ好調だったが、7月から3月までで、12月を除く全ての月が前年割れ。

軽自動車の好調が年間を通じて大きなトピックであったが、登録車の減少幅をカバーするには至らなかった。直近2年間で8万9000台超えを連続記録し、9万台市場への復活が期待された府内新車販売は、一步後退した。

5月1日号は休ませてください。11日(月)から通常通り発行いたします。京都自動車新聞社

経営上の課題

当面の経営上の課題点では、「原材(燃)料高」が52.4%と回答率が増加し、18期連続で第1位となった。第2位の「求人難」は45.2%、第3位の「受注・売上不振」は37.1%といずれも前期から増え、企業の負担感が一層強まっている。第4位の「人件費負担増大」は36.7%、第5位の「技能労働者不足」は18.4%。

経営動向

製造業は、操業率BSI値が▲0.4とわずかに下降し、受注残も▲1.3と減少基調。建設業における受注高も▲2.3とマイナスで、公共・民間ともに減少傾向がみられる。

一方で、原材料価格BSI値は32.3と高水準を維持し、4期ぶりに30を上回るなど、コスト上昇圧力は依然として強い。

業種別では、製造業(58.6%)、建設業(54.2%)で、原材(燃)料高の回答が多

9月期にかけては再び弱含む見込み。生産・売上高BSI値は▲6.0と減少に転じ、建設業を除く全

位の「受注・売上不振」は37.1%といずれも前期から増え、企業の負担感が一層強まっている。第4位の「人件費負担増大」は36.7%、第5位の「技能労働者不足」は18.4%。

製造業は、操業率BSI値が▲0.4とわずかに下降し、受注残も▲1.3と減少基調。建設業における受注高も▲2.3とマイナスで、公共・民間ともに減少傾向がみられる。

一方で、原材料価格BSI値は32.3と高水準を維持し、4期ぶりに30を上回るなど、コスト上昇圧力は依然として強い。

自社概況(総合判断)	BSI値(実績・予測)			
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
総計	9.3	▲4.3	1.9	▲1.1
業種別				
製造業	8.7	▲5.0	1.7	0.0
卸売業	10.0	▲5.1	▲3.9	1.4
小売業	25.0	▲12.5	8.3	▲4.2
建設業	4.3	15.3	▲4.4	2.2
不動産業	▲22.8	▲10.0	▲20.0	▲5.0
運輸・倉庫業	3	▲11.8	23.6	▲5.9
サービス業	19.2	▲5.0	6.3	▲5.0

ての業種で減った。特に運輸・倉庫業(▲20.6)、小売業(▲16.7)などで減少幅が大きかった。経常利益も▲7.3と減少、卸売業(▲14.2)、運輸・倉庫業(▲14.7)など、落ち込みが顕著で、資金繰りも▲4.5と悪化した。全ての業種でマイナスとなり、企業経営を取り巻く環境の厳しさが浮き彫りとなった。

さらに、価格転嫁の動向については、「一部は転嫁できている」との回答が7割を超えたものの、転嫁率は50.8%にとどまり、コスト上昇分を十分に吸収できていない企業が多い。価格転嫁の充足度についても「十分」とする回答は3.6%にとどまり、「不十分」が6割を超えるなど、依然として厳しい状況だ。

業種別では、製造業(58.6%)、建設業(54.2%)で、原材(燃)料高の回答が多



新しいドライビング体験を提供する
LEXUSのBEV(電気自動車)専用モデル

RZ

Photo:
RZ550e "F SPORT"

車両本体価格 9,500,000円 (税込)

ボディカラーのブラック&ニュートリノグレー(M48)、パノラマルーフ(IR-UVカット機能付/Low-Eコート付/暗光機能付)はメーカーオプション。※写真の一部は合成です

車両本体価格		
RZ350e "version L"	7,900,000円 (税込)	~
RZ550e "F SPORT"	9,500,000円 (税込)	

- 価格にはオプション価格が含まれません。
- 価格はメーカー希望小売価格<25年12月現在のもの>で参考価格です。価格はレクサス販売店が独自に定めていますので、詳しくはレクサス販売店におたずねください。
- 価格はバンク修理キット付の価格です。
- 保険料、税金(除く消費税)、登録料などの諸費用は別途申し受けます。
- ジャッキツールセットはディーラーオプションとなります。
- 自動車リサイクル法の施行により、リサイクル料金が別途必要となります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。

レクサス北大路	レクサス西大路	レクサス宇治
0800-700-8100 京都市北区紫野花ノ坊町15番地 (千本北大路西入南側) 【営業時間】9:30~18:00 【定休日】水曜日、第2火曜日	0120-800-807 京都市右京区西大路五条 下ル東側 【営業時間】10:00~18:00 【定休日】水曜日、第2火曜日	0774-22-2500 宇治市24号線 京滋バイパス交差点北 【営業時間】10:00~18:00 【定休日】水曜日、第2火曜日